

# 30代教師の転

起  
んでも  
きる!

失敗やつまずきを転機に、授業力を高める!



## 6年間を見通した指導体制で 生徒の英語運用力向上を目指す

私が乗り越えてきたもの

### 英語学習への生徒の意識の違い

私は33歳の時、愛知県内の別の私立高校から、中高一貫の私立南山高等・中学校女子部にやって来ました。

前任校では国際コースを担当し、生徒に英語でディベートをさせたり、レポートを書かせたりと、学んだ英語表現を使わせる機会を授業中に多くつくっていました。生徒は「英語が話せるようになりたい」という熱意が強く、私が英語で問い掛けると、それに対抗するように英語で答えてくれました。ところが南山高等・中学校女子部では、私が英語で問い掛けても生徒の反応は薄く、単語や文法の知識は吸収し

愛知県・私立南山高等・中学校女子部

糟屋 徹先生 36歳

ようとするものの、実技として英語の運用力を高めようという生徒は少ないようでした。前任校の生徒との英語学習に対する意識の違いを感じました。

### 私が音読する声だけが響く授業

私は、生徒の関心を英語の運用面に向けようと努めました。私は自らの英語習得経験から、「英語力向上に必要なのは、音読を基本とするトレーニングだ」と生徒に伝え、英文を繰り返し音読させる授業を展開しました。表現力を付けさせるために、英語のスピーチ、自由英作文なども授業に取り入れ

### 高3生の生徒を授業に引き付けられなかった

ました。2年目に受け持った中3生は、特にこのスタイルによくついてきて、授業での反応も大変良く、私は自分の指導に手応えを感じていました。着任3年目で初めて高3生を担当した時も、受験学年だからといって指導を変えらるつもりはありませんでした。持ち上がりではなかったため、まずは英語を声に出すことの意義を説明し、音読中心の授業を開始。4月は音読する生徒の声も大きく、私は自分の指導がうまくいくと思っていました。しかし、1か月ほど経った頃から、生徒の声は日に日に小さくなっていき、多くの生徒が明らかにトレーニング中心の授業形態に拒否反応を示していることが分かりました。



かすや・とある ◎教職歴9年。同校に赴任して4年目。担当教科は英語。中学1年生担任。  
私立南山高等・中学校女子部 ◎全日制/普通科  
女子校。12年度入試では、国公立大は、北海道大、東京大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大などに83人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大などに延べ465人が合格。

## そして、これからも挑み続ける目標

### 受験指導に方針を転換するも……

生徒は音読をせずに何をしているのかと、うつむいている生徒一人ひとり  
を注意してみると、彼女たちは皆、塾  
や予備校のテキストに取り組んでいま  
した。「受験の役に立たない授業なん  
か、聞きたくない」という無言のメッ  
セージを突き付けられた思いでした。

自分の指導が生徒に拒否されている  
ことが明らかである以上、方針を転換  
せざるを得ません。私は音読中心の授  
業をやめ、入試問題演習を行うよう  
になりました。演習後には、英文の構造  
を分析し、文法事項をじっくり解説し  
ました。その結果、内職をする生徒が

いなくなつてホツとしたものの、「こ  
れで生徒の力を伸ばすことになるのだ  
ろうか」という気持ちは残りました。

センター試験が終わり、国公立大個  
別学力試験に向けた勉強が本格化する  
と、何人もの生徒から自由英作文の添  
削を頼まれました。全員が難関大を志  
望しており、センター試験の英語で満  
点を取った生徒も何人かいました。し  
かし、どの答案を見ても、決して整っ  
た英文ではありません。彼女たちは、  
大学入試には対応できたとしても、英  
語で自分の考えを十分に表現できるよ  
うにはなっていないのです。そう  
なることを漠然と感じていながら、た  
だ受験対策しか出来なかったことに、

私は自分の無力さを感じました。

### 英語の運用力を高めるための試作

大学受験のためだけでなく、大学合  
格後も生かせる英語力の素地をつくる  
責任も、高校教師にはある。私は改め  
てその思いを強くしました。しかし、  
自分の気持ちをぶつけるだけでは、生  
徒はついてきてくれません。英語の運  
用力を高めることで、入試問題を解く  
力も付くと身をもって感じさせてこ  
そ、生徒の心は動かせるのです。

中高一貫の6年間で、いかに早く生  
徒の英語運用に対する意識を高め、段  
階的に力を付けさせるか。指導に掛け  
られる時間は十分にありますが、1人  
の教師が6年間教え続けるわけではな

## 英語運用力の習得と志望進路実現の両立を目指して

いので、英語教科団で一貫した指導方  
針を共有しなければ、生徒の混乱を招  
くはず。そうならないために、私  
は6年間の「Can-doリスト」を試作し  
ました。生徒の発達段階に応じて付け  
させたい力と、そのためにどのような  
指導をするのかを、高3から逆算して  
考えていったものです。最近では、こ  
れを英語科の先生方と指導について話し  
合うための叩き台としながら、自分の  
指導にも反映させています。

生徒の志望進路実現という責任と同  
時に、英語を使いこなせる人材を育成  
するという責任を、英語教師は社会に  
対して負っています。そうした社会貢  
献を果たせる英語科を先生方と一緒に  
作りたいたいと思っています。

## 糟屋先生 の 授業実践



## Q&A

**Q** 生徒に英語での表現力を付けさせる  
ために、授業でどのような工夫をして  
いますか？

**A** 表現力の土台となるのは、語い・文法、  
そして読解力です。そこで私はまず、生  
徒たちに徹底的に音読をさせます。音読という  
トレーニングを通して、英語を英語の語順のま  
ま処理・解析する回路を頭の中に作り上げる  
ことができ、その回路を通してインプットされたも  
のが自らの表現力の下地になるのです。

表現力の直接的な指導としては、英語によ  
るスピーチ、自由英作文などに取り組みせてい  
ます。テーマは生徒の発達段階に応じて変えま  
すが、中学1年生を担当している2012年度は、  
「10文自己紹介」「好きな人・物紹介」とい  
ったテーマです。また、楽しみながら英語に触れ  
られるように、友だち同士でチャットをさせるこ  
ともあります。その際、「Yes」「No」で答えるだ  
けでなく、その理由も答えるように伝えています。

**Q** 表現力がどの程度付いたかを生徒自  
身に実感させる機会は、どのように  
つくっていますか？

**A** 学期末に、私と1対1の英語インタビュー  
テスト、クラスメートの前で英文スピーチ  
をするパフォーマンステストという2つの実技テ  
ストを必ず行っています。インタビューテストでは、  
ただ質問に答えさせるだけではなく、私に質問  
させたり、それをレポートにまとめさせたりします。  
授業で学習した表現が実際に使えるようになって  
いることに気付かせ、「話せる喜び」を感じさ  
せようという狙いです。学年末には2分間のイン  
タビュー、1分間のスピーチに取り組みさせます。

### メッセージを お寄せください

◎更なる授業力の向上を目指す糟屋徹先生へ  
メッセージをお願いします。同じ課題を抱えて  
いる同世代の先生の共感の言葉、独自の授業  
スタイルを確立された先輩からの応援やアドバ  
イスなどを自由にお寄せください。編集部より、  
糟屋先生へお届けします。

下記のe-mailアドレスに  
メッセージを送信ください

[view21\\_since-1975@mail.benesse.co.jp](mailto:view21_since-1975@mail.benesse.co.jp)